



# 教育あがつま HOT NEWS

第64号  
令和2年12月28日(月)  
吾妻教育事務所  
吾妻郡町村教育委員会連絡協議会

## 考えが広がったり、新たな考えに 気付いたりする「豊かな交流活動」



教科別実践事業  
長野原町立応桑小学校

応桑小学校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教科別実践事業（吾妻教育事務所指定：教科は国語）として、国語科の「読むこと」を中心に学習指導の工夫を図ってきました。10月16日には、3年生と5年生の授業が公開され、児童が活発に交流する姿が見られました。

### 3学年「すがたをかえる大豆」(説明文)

本時は「初め」「中」「終わり」の「中」にあたる＜事例の挙げ方の工夫＞に焦点をあて、自分の意見を交流する活動を取り入れました。児童は、まず個々で「説明のじゅんじょ」の秘密を考えました。児童は、形や作り方から順序を考えていたので、教師は児童が本文の言葉(叙述)に着目できるように、考えのヒントになる言葉を本文から見つけることを助言しました。その後の交流を通して、「具体例を挙げる時には、説明する順番を考えることが大切なのだ」ということに、一人一人が気付くことができました。

#### 交流する



本文の叙述に着目する意見が出て、  
考えが広がりました！

- 教師：「『とうふ』は、どうして3番目なの？」  
 児童A：「手間をかける順番かなあ。」  
 児童B：「筆者が知ってもらいたい順番かなあ。」  
 児童C：「僕は、分かりやすい順番から分かりにくい順番になっていると思うな。理由は、段落の初めに、『いちばん分かりやすいのは、・・・』って書いてあるから。」  
 児童A：「ああ、そうか。そうすると、筆者は、私たち(読み手)に分かりやすい順番で説明しているってことか。」

### 5学年「たずねびと」(物語文)

本時では、はじめに、広島へ行く前の「綾」と、広島から帰る時の「綾」の気持ちには大きな変化があったことを本文の叙述をもとに全体で確認しました。その後、児童は「綾」の心情の変化に大きく影響を与えた出来事について理由を挙げながら発言しました。

#### 交流する



友達の考えと自分の考えとを比べ合い、  
新たな気付きをもつことができました！

- 教師：「『綾』の心情の変化に影響を与えた出来事は何だろう。」  
 児童A：「うちのめされるような気持ちとあるから、資料館に行ったときのことでないかな。」  
 児童B：「私は、『わすれんでおってね。』と言ったおばあさんの言葉だと思う。おばあさんは、忘れてほしくないんだよ。」  
 児童C：「私も最初は資料館のことだと思っていたけど、Bさんの意見を聞いて、おばあさんとの出会いや、おばあさんの言葉が『綾』の気持ちを大きく動かしたのではないかなと思います。」

一人一人が自分の考えとその理由を明らかにした上で交流を行ったことで、自分では気が付かなかった友達の考えのよさに気付くことができました。また、実践を積み重ねるうちに友達の考えをもっと聞きたいという学級の雰囲気が高まり、他教科の授業でも積極的に意見を伝えられる場面が増えました。